

第 26 回岩手県食の安全安心委員会議事録

1 開催日時及び場所

令和 3 年 2 月 3 日（水）10 時 40 分から 11 時 50 分 盛岡地区合同庁舎 8 階 大会議室

2 出席者の氏名

(1) 委員

磯田朋子委員、岩館智子委員、小山田緑委員、欠端哲代委員、佐藤康子委員、後藤和彦委員、嵯峨潤子委員、佐々木安彦委員、佐藤圭委員、照井勝也委員、名郷根久美委員、畠山正委員、赤石真美委員、佐藤至委員、千葉俊之委員、寺嶋淳委員、村元美代委員

(2) 関係室課等

沼田智彦総合防災室主任主査、高橋希望学事振興課主事、前田敬之放射線影響対策課長、沖田潤一郎資源循環推進課主査、高橋省一若者女性協働推進室主任主査、吉田有里健康国保課医務主幹、小野償子健康国保課主任主査、船橋聖一産業経済交流課主事、藤原孝行農林水産企画室主任主査、沼田芳宏流通課主任主査、澁谷まどか農業普及技術課上席農業普及員、廣田志紀子農業普及技術課技師、山田修農産園芸課主任主査、佐々木悠佳畜産課主査、阿部瑛水産振興課技師、日下右京県産米戦略室主事、中川友治保健体育課保健体育担当課長、根澤倫子保健体育課指導主事、松川仁紀生涯学習文化財課主任社会教育主事、松山和弘環境保健研究センター衛生科学部長

(3) 事務局

藤澤敦子企画理事兼環境生活部長、小島純環境生活副部長、新沼司県民くらしの安全課総括課長、佐藤敦食の安全安心課長、阿部嘉智主任主査、冨手千秋主査、白藤裕久主査、伊藤菜々主任、古館航主事

3 議事の概要

(1) 開会

(2) あいさつ

藤澤敦子企画理事兼環境生活部長があいさつを述べた。

(3) 議事

ア 報告

(ア) 岩手県食の安全安心推進計画（最終案）について

(イ) 岩手県食育推進計画（最終案）について

佐藤敦食の安全安心課長から、資料により報告があった。

【質問・意見等】

なし

イ 議事

(ア) 食の安全安心の確保に係る令和2年度取組状況と令和3年度取組方向について

①岩手県食の安全安心推進計画

【質問・意見等】

- 佐藤至委員長 取組の2番において、3校がGAP認証を取得したとあるが、どこの学校か。
- 廣田農業普及技術課技師 岩手県立農業大学校が米とリンゴでAS I A G A Pの認証、盛岡農業高校がリンゴでJ G A Pの認証、水沢農業高校が米でJ G A Pの認証を取得した。
- 佐藤至委員長 取組を始めてから取得するまで、どれくらいの期間を要したか。
- 廣田農業普及技術課技師 岩手県立農業大学校と盛岡農業高校は以前から岩手県版G A Pに取組んでいた。水沢農業高校については、今年度から取組を始めた。

- 寺嶋委員 研修会・講習会などの人を集める取組が多く挙げられている。新型コロナ感染症への対策として、講義形式であればウェブ経由で良いと思うが、実習を伴うような内容の場合はどのように対策しているか。
- 新沼県民くらしの安全課総括課長 講義形式であればウェブの活用のほか、人数制限のうえ席間隔を離すなどの対策を取っている。実習を伴うものについては、例えば、来年度開催の食育全国大会の企画で料理レシピのコンテストなどを検討しているが、実際の調理及び試食審査に代えて、書類審査を行うことなどを検討している。

②岩手県食育推進計画

【質問・意見等】

- 佐藤至委員長 取組48番にある「いわて茶漬け」について、メニューを開発して飲食店で売り出すということか。
- 沼田流通課主任主査 コロナ禍で農林水産物の消費が減る中、在宅の消費者を対象として家庭で食べる冷凍食品として、高級なお茶漬けを開発したもの。食品加工事業者と共同で開発しており、11月に盛岡市内の百貨店で試験販売した際の意見や、小売事業者からの改良点などの意見を共同開発事業者に伝え、本格販売に向けて準備をしているところ。
- 磯田委員 取組48番の「いわて地産地消弁当」について、PRの方法や募集の方法について教えてほしい。コロナ禍でテイクアウトに取組んでいる方が多くいるので、情報発信を上手にすれば取組が進むのではないかと思う。
- 沼田流通課主任主査 周知については、ホームページで行っている。在宅の時間を大切にする方や、県産食材にこだわる方も多くいると思うので、御指摘を踏まえて次年度取り組んでいきたい。

- **岩館委員** 取組 49 番にあるように、ホームページや SNS による情報発信が進んでいると思うので、引き続き取り組んでほしい。
- **赤石委員** 肥満傾向の児童が増えている中で来年度も取組を継続するというので、取組 12 にある「岩手っ子カラダ改革☆L A F F Challenge！」の内容をお聞きしたい。
また、「やせ」傾向の児童やその保護者に対して何か取り組む予定はあるかお聞きしたい。
- **中川保健体育課保健体育担当課長** 「岩手っ子カラダ改革☆L A F F Challenge！」は、よく噛んで食べることや、砂糖の量、栄養バランスの意識などについて、データや具体的な取組項目を資料にコンパクトにまとめ、普及啓発を図っていくもの。
「やせ」への対応について課題は認識しており、今後、具体的な取組を検討したい。
- **後藤委員** 肥満の対策について、食事面の取組が主に書かれている中、体を動かす方については取組の 13 番に「体力アップ 60 運動」とあるが、体操だけではなく、もっと普段から外で体を動かすことを促すような取組が必要ではないか。野球は上手だが前転ができないような子どももいる。
- **中川保健体育課保健体育担当課長** 子どもの体力向上という観点では、運動する子どもとしない子どもの二極化が進んでいる。運動しない子どもについて、幼児期から運動に親しんでもらおうということで、「体力アップ 60 運動」に取り組むことにしている。時間はかかるが着実に取組を進めていきたい。
- **佐藤至委員長** 取組の 33 番に、災害に備えた食料の備蓄とあるが、消費期限が間近になった備蓄食料については、どのように扱っているか教えてほしい。
- **沼田総合防災室主任主査** 消費期限間近の備蓄食料については、災害に関する各種会議、訓練等で活用するなど、廃棄しないように、その都度検討して利用している。

(イ) 令和 3 年度岩手県食品衛生監視指導計画（案）について

【質問・意見等】

- **名郷根委員** 前年に比べると食中毒が増えているように見える。新型コロナウイルス感染症により、今まで外食で食べられていた食材を家庭で口にする機会が増えているが、その影響はあるか。
- **佐藤県民くらしの安全課食の安全安心課長** 前年に比べると増えているように見えるが、その前などを含めて比較すると、特に増えている状況ではない。昨年の傾向としては、アニサキスによるものが多く、患者数の割に事件数が多くなっている。コロナ禍により飲食店のテイクアウトなどの相談が増えているが、事件事故への影響は見られない。
- **佐藤至委員長** 令和 2 年の患者数は令和元年より減っているか。
- **佐藤県民くらしの安全課食の安全安心課長** 令和元年は 28 人で同程度である。

- **照井委員** 令和2年食中毒原因のうち、植物性自然毒が多くなっているが内訳を教えてください。また、きのこ類に詳しい方が減っているため、可能であれば、きのこの見分けについて技術の継承を検討していただきたい。
- **佐藤県民くらしの安全課食の安全安心課長** 植物性自然毒の内訳は、カエンタメ、クサウラベニタケ、チョウセンアサガオ、スイセンの自家消費となっている。また、野生のきのこについては、食べられるか不明なものについては食べないようにお伝えしている。
- **佐藤至委員長** 出前講座において、毒きのこを取り上げたことはあるか。
- **佐藤県民くらしの安全課食の安全安心課長** 毒きのこだけを取り上げたことはないが、食中毒をテーマにした中で毒きのこについて説明している。

- **磯田委員** 輸入食品についての取組について、県で50件検査して大丈夫だったというだけでは、県民の安心感は得られないので、国の取組を講習会で情報提供するなど、情報発信の取組を行ってほしい。
- **佐藤県民くらしの安全課食の安全安心課長** 御指摘のとおり取組を進める。

(4) 閉会